1966
5月号
No.150
編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

5月の人口と世帯
人口 7,455(−92)
男 3,703(−35)
女 3,752(−57)
世帯数 1236(+2)

みんなでハエやカのいない住みよい郷土を作ろう

環境衛生改善事業として各部落公民館が中心になつて、毎年蚊とハエの駆除作業を村内各部落で行なつてきましたが、更に効果を高めるために村ぐるみで実施しようと村と公民館が各区に呼びかけています。

本号では棚倉保健所より提供して頂いた資料によりハエと蚊の効果的な防除法を掲載し皆さん方の参考に供します。

ハイ一匹にバイキン三千四百万個

ハエは一回に百から二百の卵を生み、二週間で成虫になり、不潔なものに好んでとまるので体の外側に五百五十万から六百四十万個、体のなかには二千八百万個ものバイキンをもち、赤痢、チフスなどの伝染病菌を運びます。駆除には発生場所をなくすことと薬剤による駆除をあわせて行なうのが最も効果的です。

殺虫剤の種類

形のうえからは粉剤、油剤乳剤（ゾール剤）、くん煙剤の四つに分れ、成分により分類すると塩素系製剤（DDTリンデン、クロールデン）有機燐製剤（DDVP、ダイアジノン、マラサイオン、ジブロム、ナンコール）その他（ピレトリン）になります。

効果のあらわれ方では遅効性（遅いが残留効果が大きく人畜に対して比較的安全）速効性（速いが残留効果が少ない）の二つに分れているが、最近はこれらの薬剤をあわせて二種混合、三種混合の理想的薬剤ができて一層大きな効果を発揮するようになりました。

駆除の要点

害虫の生態や習性をよく知つて発生場所やかくれている場所をなくし、殺虫剤の特性や有効成分をよく知り、害虫の習性に合う薬剤を集る場所と幼虫の発生源などに撒布します。ハエの成虫に対しては十日か十五日に一回噴霧し、ウジに対しては二週間に一回ジョーロで撒布します。

これらの駆除作業には地区組織等を活用して協同防除を行ないば、最少の経費で最大の効果をあげることができます。薬剤の使用にあたつては害虫に十分ふれさせること、殺虫成分の特長を生かす、すぐれた混合剤を活用する。屋外の発生源をおさえることを重点にして下さい。

油剤の撒布法

①残留噴霧
残留性の薬剤を撒布面へ十分（一坪当り一五〇cc）噴霧すれば、長期間有効でハエや蚊の発生をおさえることができます。

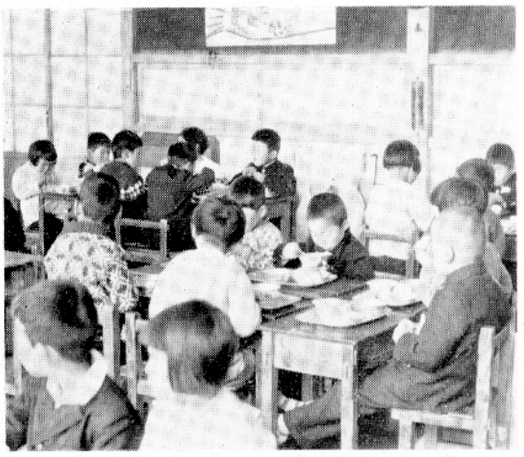
②直接噴霧
DDVPやピレトリン剤の如き速効剤を虫体に直接噴霧します。このさい部屋の戸、窓等をしめ切つて噴霧すれば効果的ですが残留効果は期待できません。

③煙霧
DDVPのような揮発性、ガス効果の大きい油剤を煙霧状にして撒布し（煙霧機使用）広範囲な屋内、手のとどかない高い所や物かげの害虫駆除に能率的で、発生の最盛期とひそんでいる越冬昆虫駆除に有効です。

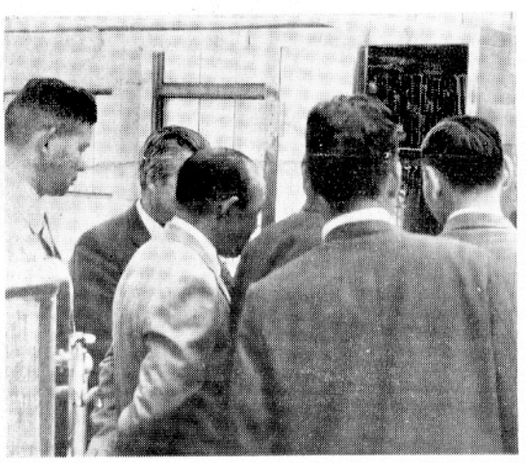
殺虫剤取扱上の注意

①粉剤の撒布は、むらにならないよう筒型のような家庭用撒粉器を用いて下さい。
②DDVP、ダイアジノン、マラサイオン、その他の有機燐製剤を噴霧するときは吸いこまないよう厚いマスクをして下さい。また噴霧して締め切つた部屋に長く入つていないようにして下さい。
③肌に薬剤がついたとき又作業のあとは石けんでよく洗い落して下さい。
④使用する前に必ず缶やびんなどに書いてある注意書をよく読んで下さい。

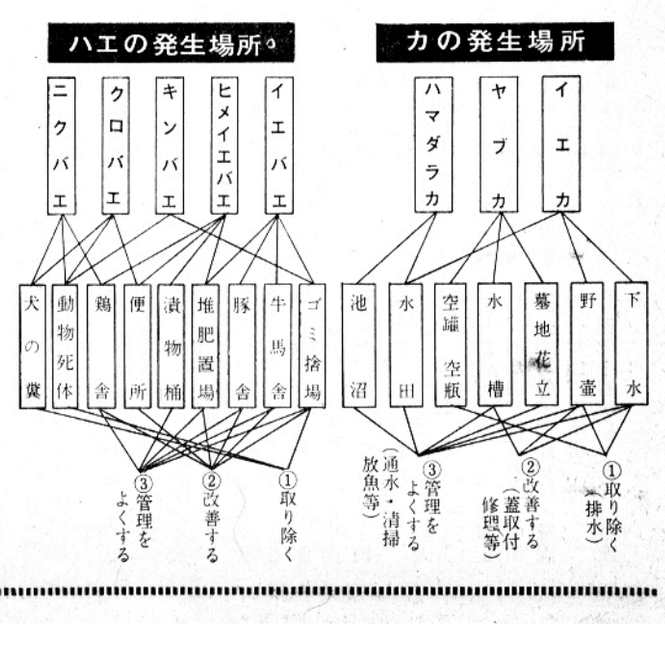
★ ★



待ちに待つた給食が5月2日から実施されました。1年生は上級生が配膳してくれたパン、肉汁、ミルクに日ごろのヤンチャ坊主も、おとなしく舌づつみをうちました。



給食設備もオートメーション化され、森田所長の説明に教育事務所長、pTA会長、議員さん方も感心しました。食器を完全に消毒する熱風消毒機の前で……。



村内の小中高校PTA役員

村内各校のPTA役員はこのほど次のとおり決定しました。

鮫川小　会長　前田　弘
同戸草分校会長　三瓶　正司
同東野分校会長　鈴木　嘉上
西野小　会長　高坂　正雄
西山小　会長　鈴木　一実
富田小　会長　船木　操
渡瀬小中　会長　芳賀　正夫
青生野小中会長　鈴木　清司
鮫川中　会長　大楽　勝男
東白川農商高鮫川分校
会長　中川西金之助

村PTA連絡協議会は五月六日に鮫中で開かれ、会長に大楽勝男氏、副会長に船木操氏を選びました。

新しい農業改良生活改善推進員

農業改良と生活改善の普及事業を進めている普及員の補助活動をするため、村長の推せんにより県知事より任命された次の方々の辞令交付式が五月十日に青年研修所で行なわれました。

農業改良推進員

高坂精一　緑川多気志　須藤久良　舟木誠也　関根正照　水野正　阿久津義郎　生田目保夫　芳賀清一　高木勝美　水野成男　緑川昌美　芳賀光美　鈴木作衛　本郷広美　吉田元美　佐藤和雄　船木彦助　松本源一　白井邦光　芳賀寛一　蛭田康文　藤田一朗　赤坂貞雄　長井進一　岡部勝正　生田目忠之助

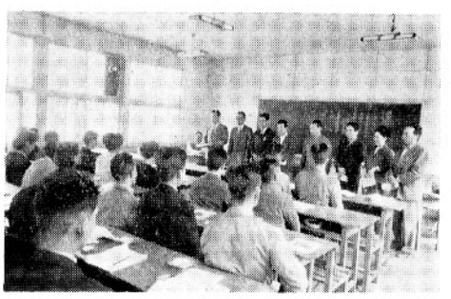
生活改良推進員

鈴木シゲ子　須藤昭子　藤田ヤス　須藤美代子　吉田ハツエ　関根貞　高野ハル子　関根フミ　根本美枝子　本郷ヨシイ　円井モト　金沢キクイ　金沢ツネヨ　円井ツヤ子　白坂タケ　森チカノ　蛭田セキ　蛭田トク　前田トシエ　鈴木キノ　松本ノブヨ　鶯野谷スイ　石井政子　芳賀キヨノ　菊地ミツ　蛭田オト　藤田文子　山形孝子　星フクノ　大竹ヨシ子　岡部セン

農改普及所の組織

県の行政機構改革により塙普及所が廃止され、四月から東白川農業改良普及所（事務所棚倉町）として新しく発足しました。職員組織は次のとおりで、カッコ内は特技科目です。

所長…上田林助（作物畑）　次長…渡辺隆（経営）、塙地域主任…石井修三（作物稲）　改良普及技師…関本幸吉（畜産）、沼田滋三郎（作物稲）　鈴木四郎太（そさい）、関根拾吉（経営）、松本利雄（植物防疫）、渡部弘信（作物稲）、高橋コウ（生活改善）



写真は推進員の辞令交付式で所員を招介する上田所長

おらの声 (34)

新産都市の指定がきまったとき、さぞ管内に炭焼小屋の多い「都市」ができるだろうと嘲った人があったが、その現実にちがいはないにしても安積全部が猪苗代湖の南岸まで郡山市になり、もたついた石城五市を中心とする市町村も、ついに「いわき市」の合併に歩調を合せることになりました。

本村の青生野が三十三万都市と境を接することになり、いわばわが村も「都市近郊町村のひとつになるわけです。

現在青生野地区には、全国一の大集団桑園も開かれ、大規模和牛協業の牧野が、国有林を開放されて設置されつつあります。

田畑の区劃整理も行われ、農業の近代化は急速に進んでいるといえましょう。

しかし、ここに進んだ近代営農が確立され、おしよせる新産の諸影響と対抗し、独自の生活環境を構成していくには、地域の人々の頭脳の切りかえが必要であり、社会生活の態度や慣行にも大きな改変が加えられなければなりません。

それには地域の人たち自らの自覚と努力が重要であることはもちろんですが、国や県や各種団体機関の暖かな後保護が必要であり、助力とはげましを期待してやみません。

また農業構造改善事業は、広い意味の営農の一部にすぎず、地域的にも局地施策でしかないので、村の総合的な発展と、住民福祉の向上には、現行の行政施策の中から、引きつづきとりいれなければならないものが、たくさんあります。

農業構造改善の第二次計画も必要であるし、今のところあまり手のついていない分野で、林業構造改善も実施すべきでしょう。

更に交通、通信、医療、保健、水道、住宅、環境衛生、文教、福祉など、あらゆる生活環境の整備充実を図り、生産性の向上、雇用の場の提供など総合的な振興施策が考えられなければならず、そのためには山林振興法の適用などもそのひとつの手段となります。新産都市建設のような拠点開発方式がとられている現在われわれは都市と農山村との均衡開発運動を強く展開すべきであります。

狭くけわしい山地で、立派な山岳酪農と観光を両立させたスイス。チューリップのオランダ。畜産王国デンマークなど、土地の特異性を巧みに生かした国々は、都市と農村工業と農業の均衡開発を成功させた先進地として、学ぶべきものが多いと思います。

構造改善のアフターケヤ

村長　石田卯子八

納税だより

固定資産税かわる

四十一年度から三十九年度に行なわれた土地の評価替えによって、次のような負担調整率により課税されることになりました。

これで宅地、山林等は新評価額の上がり具合により前年度から一割から三割程度多くなる方もあります。なお田、畑と在来の家屋の税金は変更ありません。

なお免税点は四十一年度から、土地二万四千円が八万円に、家屋三万円が五万円に、償却資産（営業用施設）十五万円が三十万円に引き上げられたので、固定資産税の出なくなった方が相当あります。不明の点がありましたら税務課に問い合せて下さい。

昭和39年度の新評価額／昭和38年度の評価額＝上昇割合	負担調整率
3倍未満	1.1倍
3倍以上8倍未満	1.2倍
8倍以上	1.3倍

◆五月の納税◆

固定資産税　第一期分

納期限は**五月二十五日**です。

春から夏への家畜衛生

湿度が高く、気温がはげしく変る梅雨の季節は、家畜の健康にもっとも悪い時期です。湿度と温度がバイ菌やカビ類の繁殖に最適であり、カやハエなどの衛害生虫も発生しやすくなって、これらの原因による家畜の病気も少くありませんので、衛生に十分留意してください。

雨の多い時期には、エサを与えるにも手軽にすませがちですが、青刈飼料、牧草と、栄養価の高い飼料も豊富な時期ですから、規則正しい給与を続け、畜舎を開放し、日光浴、運動につとめ、体力をつけてやるようにしてください。

畜舎の清潔と乾燥も、梅雨期にはとくに心がけ、豚舎や牛舎の糞の除去をひん繁に行ない、できるだけ舎内の水洗いをさけ、敷ワラ等の交換の回数を多くして舎内の乾燥につとめます。これは下痢、寄生虫、皮フ病の予防になりますので、十分徹底してほしいものです。

次に、雨天に刈り取った青刈作物や野草は、スノコなどの上に広げて水を切って与え濡れた草をそのまま堆積しておくと、短時間に発酵しますので、必要なだけ収穫するようにしてください。

腐敗したエサや残り水を与えることはつつしみ、残飯も給与する前に煮沸するよう心がけてほしいものです。

吸血昆虫の防除は、畜舎の構造、発生の状況に応じて防除の方法も変わりますが、水溜り、湿地の排水、ヤブの整理、堆肥舎など、カ、ハエなどの発生しやすい所を隣近所と共同でBHC、DDTなどの殺虫剤で防除してください。

家畜の病気の早期発見は、常に家畜に接し、それぞれの家畜の健康時の状態をよく知っておくことです。

異常のある場合は、元気、食欲がなく下痢、セキ、クシャミ、異常卵、産卵の低下など、目につきやすい症状を示すものですが、伝染病の場合では、このような症状を示さず急に死亡したり、まん延したりします。家畜が異常を示すときには、すぐに隔離し、センターの獣医師の診断を受けるようにしてください。

商工会長に

湯座さん

村商工会では五月十日に公民館で総会を開き事業計画、予算を審議し役員改選に入り次の方々を選びました。

会長…湯座伝　副会長…藤田卓三、鈴木大作　会計…湯座清男、鈴木好男　監事…円井重雄、上田啓治

理事…植村政吉、北条正人、本郷正、市川正、宗田文吉、白川政一、鈴木芳男、江原正雄、西島康、蛭田義男、中川西好幸、鈴木大作、松本重忠、高久勝義、佐藤勇吉

顧問…石田卯子八、植村政

議会だより

第六回鮫川村議会臨時会

去る五月二十日に第六回議会臨時会が招集されました。

付議事件は、常任委員会副委員長の選任と鮫川村税条例の一部改正の二件でありましたがその結果は次のとおりです。

(1)会期　一日間

(2)報告事項

イ　例月出納検査結果報告

ロ　降霜被害状況報告等

(3)選挙第一号、鮫川村議会常任委員会副委員長の選任について。

従来、副委員長制度はありませんでしたが、去る三月の第四回議会定例会において、委員会条例が全面改正になりそれぞれの委員会に副委員長を置くことになり、このたびの議会に諮った結果、指名推せんにより次の方々が副委員長に選任されました。

◎総務常任委員会副委員長
金沢　省三

◎厚生常任委員会副委員長
北条　正人

◎文教常任委員会副委員長
関根　信政

◎経済常任委員会副委員長
星　弥義

(4)議案第二十八号、鮫川村税条例の一部を改正する条例。

この条例の一部改正は所得税法が大幅に改正されたゝめそれに伴つて村の税条例も改正されたわけでありますが、今回の改正の大きな点は固定資産税の取扱いにあるようです。農地に関する課税評価は従前どおり据置かれるわけですが、宅地等はこのたびの評価替による新しい基準で課税されるわけです。しかしこの新基準によると税額が一度に相当高くなるので、これをおさい逐次上昇させるようになつています。

又免税点の引き上げにより今まで課税されていた固定資産税が賦課されなくなつたものもあります。その数は二四四件、それに、いちゞるしく歩行困難な方が通常使用するバイク等には申告によつて課税されませんから該当者は申告して下さい。その他詳わしくは税務課に問い合せて下さい。

議会事務局

新鮫川風土記 ⑧

衣服と農具

中井恒雄

バスで浅川から来て、すでに村境にかかるころになると特徴のあるうねうねした小山つづきの、しかも山ひだの作の畑や階段状のたんぼが続いているのがわかる。このねこの額のようなたんぼを耕作して暮してきたこの地方の生活様式は、他の地方にもめずらしくないが、興味深いところがある。

鮫川ではもとは女は屋敷回りの細かな仕事が主で、主生業はもつぱら養蚕業で、その話は少し古くなつて申訳ございませんが、私の御近所の石井福一さんの二女、文子さん（現鮫中一年）が小学校六年のころ、お父さんと一緒に山へいかれました。ふと木にぶらさがつている風船をみ、中をとり出してみると、「栃木県矢板小学校九十周年記念のタネです。どなたかお拾いになつた方は花を開かせて下さい。」というもの。文子さんはこれを大切に持ち帰り大事に育てると共に矢板小学校あてに返信したのでしたが、折かえし矢板市で木工業を営む礎崎三郎さんの長女宏子さんから仲よくしましょう」と書きおくられたのでした。

日がたつて本年四月六日、先方のお父さんともども、自家用車で来られ縁のある山を見、石井家に滞在して一日のよろこびを分ち合つたということでした。

世の中には不思議なめぐり合せもあり、風船の中のタネのとりもつ美しい交りが、こんどの夏休みに矢板に招かれていることを聞き知つて、親としてのよろこびは勿論、近所の一人として心からうれしく思つたのでした。その植物もやがてはきれいな花をつけることでしよう。気持のよいお話でしたのでお知らせしたくなつたわけです。

西野　酒垂　石井カヤ

× ×



まゆからの糸とりとはたおりなどであつた。だからほとんど水田耕作などに女は出ないくらいであつたといわれている。それで野ら着は、やや短か目の長じゆばんを着ており、足には山ぞうりという耳のついたぞうりをはいていた。明治になつてもんぺが作られて労働者となつた。そして時代が変り養蚕業の衰微したことが女を山にはたらきに出した一つだといわれる。

鮫川村ではたんぼに耕作に行くことも、山や畑に行くことも全部「山仕事に行く」といつている。野らに働きに出るいつさいのことをいうのである。

部落は「屋敷」とも呼ばれているが、実は点在している親族の集りで、しれたものだつた。だから多くは耕地を屋敷周辺にもつていて、女は長じゆばんのままでも、じゆうぶん労働できるようなしくみになつていたのであつた。

部落の戸数が増し開拓が進むにつれて、遠くの山畑ができ、作業小屋などの休み小屋を建てて一日中家に戻らなくてもよいようにした。本格的な労働者で夫婦者がそろつて野らに出るようになつたのである。

このような特別な地形や山働きを物語るように作業小屋をのぞくと色々な農具が並んでいる。今では立派な民芸品といえる雨具用のミノや物を背負うネコミノがさがつている。農夫がタンガラを背負つて、そでなし・もんぺ・手甲姿で山から帰つて来た。このたんがらは色々な種類がある。じさんぼの木などを骨ぐみにして、ふじづるや縄で編んだものや、針金を用いたものや竹製など種類は多い。

同じ背負う道具にはヤセウマというのがあつて、この作り方はほとんど村中同じで、坂道なので、収穫物も肥料も農具もすべてこれらによつて背負つて運ばれるのである。

農良仕事にはたんぼを起す三本ぐわ、畑には平ぐわ、みぞきりぐわや麦の土入れにはかんからというものなどを用いる。草刈には草刈がま、大がま、これらをみがくのにはと石入れるとぶくろ、そして小さな腰かごはけごなど、その他がある。

那須連山を越えた風船とタネ

生野菜を食べましょう

農薬と寄生虫にご注意

生野菜がたくさん出回り始めました。家庭菜園も、いろいろな野菜類でにぎわつていることでしよう。

野菜類はカロリーこそ少ないが、各種のビタミン類やカルシウム鉄などのアルカリ性無機質に富んでいます。いわば、美しさと健康の泉です。

とくに野菜にたくさん含んでいるビタミンCは、わたくしたちの食生活に欠かせない要素です。ところがこのビタミンCも料理のやり方で次のように減つてしまいます。

①煮ると一〇%から五〇%が失なわれる。

②煮てから水気をしぼると五〇%から七〇%が失なわれます。

③短時間煮ても一〇%から二〇%がなくなります。

④浅づけにしても六〇%へります。

⑤普通のつけ物にするとほとんどなくなります。

ところが生で食べると一〇%が利用され、野菜の栄養上の効果が十分果たされます。

ところが、生野菜を食べるについて、こわいのは寄生虫と農薬です。

生野菜には、よく腸内の寄生虫卵や寄生虫の子虫、あるいは経口の伝染病菌がついていることがあります。

農薬も害虫駆除のため、さかんに使われますが、農薬は雨が降つてもすぐおちてしまわないように添着剤が使用されています。

そこで、いずれの場合も、中性洗剤に数分間つけてさらに二、三回清水で洗つてからめしあがるようにしてください。

貸出衣裳の料金

村婦人会で備え付けている衣裳の種類と料金を知らせてほしいとの要望がありましたので次にお知らせします。

花嫁表裳　五組

松、竹（二千五百円）、梅（三千円）、大松（三千五百円）、うちかけ（六千円）

江戸褄　三組

二組（六百円）、一組（三百円）

喪服二組（五百円）

モーニング大中小三組（二千円）

カッコ内はいずれも一組一回の貸出料金です。シーズンには申込が多いので早目に管理人（中野字新宿、鈴木アサ）に申しこんで下さい。

◆ ◆

告知版

会長に前田君

会長の人選で難航していた青年会役員は次のとおり決定し近く総会を開くことになりました。

会長…前田英雄　副会長…青戸良一、緑川ミツイ　事務局長…青戸孝夫

分会長…矢吹静（西野）、関根英也（西山）、高木市郎（中野）、前田武久（東野）、坂本恵治（富田）、大竹元一（青生野）

公民館運審委員委嘱替さる

教育委員会では校長の転出と団体長の改選にともない、次のとおり委嘱替をしました。カッコ内は所属団体です。

安部雅人、管野時男（学校長）、矢吹清敏（農協組合長）、阿久津ハル（婦人会長）前田英雄（青年会長）

運審会長、大楽氏の館長就任にともなう後任会長には安藤祐夫氏、副会長には船木操氏が選ばれました。

グループ活動の促進

村婦人会では四月二十八日に公民館で役員総集会を開き次の事業計画と、八万六千三百三十八円の収支予算を承認しました。

四月―婦人団体及び関係機関の懇談会　六月―リーダー講習会　七月―グループ代表者交換会　九月―敬老会の協力、政治学習　十月―村民体育祭の協力　十一月―文化祭の協力　十二月―母子寮、愛生園、桜ヶ岡学園慰問　一月―婦人の政治学習（選管と共催）　二月―グループ活動体験発表会　三月―村議会の傍聴

このほかに村公民館と共催で中央婦人学級を開設し、村内の部落ごとに組織されているグループを増やし、活動を活発にするための事業を進めることになりました。

学校だより

◎七月に予定されている東白川郡中体連体育大会のソフト大会会場（村民運動場）に選ばれた。鮫中では初めての会場誘致に張切つ練習に励んでいます。

◎西野字酒垂の藤田ミヤさんは孫さんの入院看護のかたわら、縫いあげたすばらしいゾウキン二十枚を西野小学校に寄附されました。

◎西野小職員は古掛図をバラして一枚ずつ整理し各教科に利用できるよう再生しましたところ、好評なので更に職員作業として続行中です。

陸上大会で優勝

今春鮫中を卒業し東白川農商高校に進学した中野字新宿の大池澄江さんは、五月七日郡山市開成山陸上競技場にて開かれた、県南高校陸上大会新人戦で三種競技（走巾跳、円盤投、四百米）に好記録で優勝しました。

生徒会長に藤元君

公民館と青年研修所の共催で開設した青年学級、産業青年講座の開講式は四月二十六日に青年研修所で行なわれました。本年度の申込者は四十一名（男十九名、女二十二名）です。当日開いた生徒会総会で次の役員を選びました。

会長＝藤元健次郎　副会長＝矢吹静、斉藤さつき　各委員長＝水野一美（生活）、坂本啓子（記録）、関根清次（広報）、田子ミチ子（レク）、高野テル子（評価）

方部委員＝星宗一（西野）関根清次（西山）、湯座ヨシノ（中野）、前田悦子（東野）、岡部スイ子（富田）、藤田二三夫（渡瀬）、三瓶ナミ子（青生野）

五月六日の第一回講座終了後に開いた総会で決定された主な事業内容は次のとおりです。

機関紙発行、村有林下刈作業、農業構造改善地区視察、研修旅行、試験場見学、新年の集い、文集発行、東白川地方青年学級生研修会参加

珍しい狐の子



去る四月二十一日に大字東野字戸草地内の国有林で営林署の杉苗の植付をしていた、部落の人達が穴の中にいる狐の子をみつけ大きくなつてイタヅラをしては困ると、穴を堀つて捕えたが子は一匹だけでした。写真は犬の子と遊んでいる風景で人をだますと言われる狐も、こうしてみると犬の子と変りなく可愛いものです。

創業五十周年かんいほけん!!



鮫川郵便局提供

本年五月一日から六月三十日まで、郵政省の主催により創業五十周年記念、簡易保険新加入運動が展開されております。

皆様もご承知のことと存じますが、簡易保険は、大正五年に誕生してから五十年の長きにわたり、いつも皆様の身近にあつて不時の災害の準備、老後の準備、子供の教育、結婚資金として広く親しまれてまいりました。

しかし、簡易保険は、ただ単に、みなさんの経済生活の面にだけ、寄与しているばかりではありません。

お掛けになつた保険料は、簡保資金として積み立てられ、財政投融資の財源となつて国づくりの一翼を、になつております。

当村におきましても、学校の建策や、屋体の建築など、それぞれ、たくさんのお金の融通を受けております。

このように簡易保険は、みなさんの身近にあつていろいろな形で、お役に立つておりますが、このたび創業五十周年を記念いたしまして新規加入運動を展開し、みなさまのご協力のもとに、これからもなお一層、いろいろの面で、お役に立つてゆくことになりました。

赤い自転車にのつた郵便局の人が、そのうちお邪魔いたします。

その節は何分よろしくお願いいたします。

◆転居届は郵便局へも

住所が変つた場合は、必ず郵便局へも転居届をお出し下さい。

転居届が出されないと旧住所にあてた郵便物は新住所に転送されないで差出人へもどされます。

◆あて名は正しく完全に

あなたの大切な郵便が間違えなく、とどくようあて名は正しくお書き下さい。

町名、番地のほか、同居人には肩書きをつけて下さい。

◆飼犬はかならずつないで下さい

犬は郵便外務の大敵です。危険な場合は配達をしないこともありますので、ご注意下さい。

礼儀は世の中の潤滑油

私も車に乗つている一人であるが、道ばたで先方の車とすれちがう際、こちらで待つてやると、右手をあげて頭を下げていく車、ありがとうとクラクションをならしていく車、待つているのが当然だとすまし顔で通り抜ける車などいろいろである。みなそれぞれその運転手の人格を表しているものと苦笑している訳であるが、えてして素通りの車は若い人が多い。ここにも世相が表れているようだ。終戦後随分と「礼儀が欠けてきた」と呼ばれ反省を求められてきている時、人に頭を下げることは、そんなに難しいことなのだろうか。たまには一メートル前まで来ても頭を下げない人もいるがそれは変りものとして見るしかあるまい。

「お早うございます。」「寒いですね。」「お丈夫で何よりです。」たつたこれだけのことで、世の中がお互に滑らかに暮せるとするならこんな安くて尊いものはあるまい。

「おばあちやん、お早う」こんなことばの出る小中高生に悪い気持の子はいない。いろんな理屈は後まわしでよいと思う。その年代、年相応に理解され、やがて「目上の人を尊ぶ」というところにむすびつけばよい。お互の一日の生活がゴツゴツしたものにならないため潤滑油を私はこの礼儀正しさに求めたい。

西野小学校　古川一郎

おめでた

四月

青生野　棚井安友　父　朝己
押目　北条正則　〃　辰之
道少田　円井高　〃　栄一
青生野　中島文子　〃　文雄

五月

木之根　遠藤早百合父　幹雄
酒垂　斉藤靖夫　〃　良弥
余所内　関根孝弘　〃　功男
二本田　酒井光代　〃　国光
落合　根末節子　〃　宏
草牛　田子幹子　〃　一夫

おくやみ

四月

西野内　石井庄右エ門80　栄一
菅田　関根　正栄0　義栄
大平　関根　慶治66　肇

五月

仁田　緑川　イヨ81　一恵

あとがき

山間高冷地帯の宿命とは言え毎年のように晩春の頃に降霜があり、本村だけでも一千万円前後の被害を受けます。

科学万能の現代でも自然現象には勝てないものでしようか。工業の発展も必要なことですが、農業にも人間が開発した科学の恩恵を与えて欲しいものです。